

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 喜楽苑		
所在地	宇部市大字西岐波5224-3		
電話番号	0836-54-3445	事業所番号	3570200869
法人名	有限会社 ミセスヘルパー		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 25 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 22 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人 非常勤 8 人 (常勤換算 14 人)	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家 賃	月額 45,000 円	敷 金	無 円
保 証 金	無 円	償却の有無	無
食 費	朝食 110 円	昼食 470 円	
	夕食 470 円	おやつ 0 円	
その他の費用	月額 15,000 円		
	内訳 光熱水費		

(4)利用者の概要 (6 月 26 日現在)

利用者数	16 名	男性 0 名	女性 16 名
	要介護 1 2	要介護 4 4	
	要介護 2 2	要介護 5 2	
	要介護 3 5	要支援 2 1	
年齢	平均 83.8 歳	最低 55 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医科 宇部興産中央病院・阿知須共立病院・西川医院 歯科 ほかお歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

管理者(事務長)は業務指導や課題などについて市介護保険課、高齢福祉課、地域包括支援センターとの連携を密接に取っています。山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域ブロック研修会、市内の他のグループホームとの交流、見学、情報交換、研修等に職員の参加も多く、質の向上に努めています。入浴は利用者の都合や行事などで朝からの入浴、車椅子での入浴、清拭、足浴など柔軟な支援をしています。清拭用のタオルやお尻拭き用の布等を、いつでも暖かいように用意して保温して準備する気配りも見られます。

(特徴的な取組等)

かかりつけ医や協力医での受診の内容を「通院記録」に記入し、ファイルして家族への説明や遠方の家族には送付するなどすると共に、医師との情報伝達に活用しています。また、口腔ケアは年1回の検診、月1回の訪問治療、歯科衛生士の随時のケア指導、義歯の消毒、食後の口腔ケアの支援、口腔リハビリ体操など、清潔保持等の支援が充実しています。「歯科診療表」を作成し、家族への報告、ホームのケアに役立てています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を職員会議で検討し、苦情相談の第三者委員の決定や運営推進会議のメンバーについて検討、交渉の努力をされています。苦情処理の手続きについては今後の検討課題となっています。

(今回の自己評価の取組状況)

6月、7月のユニット合同の職員会議(月1回)で話し合い、その後週1回のカンファレンス時に、ユニットリーダー、計画作成担当者、職員で検討後に各リーダーが記入しました。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、自治会長、有識者(第三者委員、医師)、校区ボランティア団体会長、家族(1~2人)、職員、行政(高齢福祉課)のメンバーで避難訓練、評価結果報告、行事、活動報告の取り組みを伝え、意見交換をしています。

(家族との連携状況)

年4回ホーム便りと金銭明細書、運営推進会議の案内状を送付しています。面会時に暮らしぶりや通信記録を参考にしての健康状態や歯の治療状況を伝えており、遠方の家族には電話で連絡しています。

(地域との連携状況)

散歩での会話や挨拶、野菜の差し入れなどがあります。地域のどんど焼き、節分祭、盆踊り、ほたるまつりや運動会に参加しています。ホームの祭りのバザーに自治会、商店、高校生にボランティアとして協力を得ています。地元の中学生のプラスバンドの演奏の訪問や園児の発表会に参加したり、絵手紙などの交流もしています。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印・(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスの意義を確認し、従来のホーム独自の理念「ゆっくり楽しく一緒に利用者のペースに合わせる。」を継続しているが、具体的な検討はしていない。	○	・地域密着型サービスとしての理念の検討
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「ゆっくり、楽しく一緒に、利用者のペースに合わせる」などの4つの理念をホーム内に掲示し、ミーティングで共有して、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のどんど焼き、盆踊り、運動会に参加すると共に、ホームの祭りのバザーに自治会、商店、高校生にボランティアとして協力を得ている。園児や中学生との交流、職場体験、ヘルパー実習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は6、7月の月1回のミーティングで話し合い、週1回のカンファレンス時にユニットリーダー、計画作成担当者、職員で検討後に各リーダーが記入している。外部評価の結果は職員全員で検討、具体的な改善に努めている。		
5 (10)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回の開催し、自治会長、医師、第三者委員、校区ボランティア団体会長、家族(1～2人)、行政、職員のメンバーで、避難訓練、評価結果報告、活動報告などを伝え、意見交換している。	○	・メンバーの拡大の検討
6 (11)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者(事務長)はホームの課題、運営等について市介護保険課、高齢福祉課、包括支援センターと密接な連携を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回のホーム便り、金銭明細書、運営推進会議の案内状を送付している。面会時に暮らしぶりや健康状態を伝え、遠方の家族には電話で連絡している。	
8 (18)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時に家族の意見や要望を聞き運営に反映させるように努めている。相談や苦情を受ける窓口、外部機関、第三者委員を定め明示しているが、苦情処理手続きは明示されていない。	○ ・苦情処理手続きの明示と掲示
9 (20)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は職員3名体制で、利用者のペースを中心に柔軟な対応ができるよう、外出時や夕方の時間帯、夕食の介助時には1名増員するなど、希望休を聞き公休出勤等話し合い調整に努めると共に、30分程度の休憩が取れるようにしている。	
10 (21)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	宅老所とグループホームの部署間での異動があるが、馴染みの関係が出来ており、ダメージは少ない。新人の場合は重複勤務を日中1～2週間、夜勤1～2回行なっている。異動、離職の家族への連絡は運営推進会議や来訪時に伝えている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	非常勤も含め、全職員は段階に応じての研修を受ける機会があり、各ユニットにリーダーを置き、働きながらのトレーニングを行い、資格取得の応援もしている。内部研修は2ヶ月に1回テーマを決め実施し、復命書も共有するようにしている。	
12 (24)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、年4回の研修会に2人程度参加すると共に、地域のブロック研修会や相互訪問、情報交換などサービスの質の向上に取り組んでいる。また、市内の他のグループホームの運動会に参加し、交流もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	宅老所のサービスやショートステイからの入居が多く、馴染みの関係が出来ているが、病院の紹介、一般からの入所の方には、管理者、職員の事前の面接や見学をしながら馴染みの関係作りに努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の経験から野菜の作り方や日常生活のしきたり、心得など学ぶ事が多く、支援する側、支援される側という意識をせず、和やかな生活ができるよう努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の生活歴や日々のかかわりの中で声をかけ、希望や思いを日々の記録に記入し、カンファレンスで全職員が共有し実現に向けて検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントにより職員間で検討しながら計画を作成しているが、地域でその人らしく暮らし続けるための支援を盛り込んだり、本人、家族と十分に話し合い、意向やアイデアを反映しての作成には至っていない。	○ ・本人や家族の意向やアイデアを反映した計画作成 ・評価、モニタリングの検討
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には6ヶ月ごとであるが、変化が生じた場合には家族の来訪時や電話で説明し、随時見直すようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	かかりつけ医の受診支援、お墓参り、ふるさと訪問、馴染みの美容院の送迎、ショートステイ等柔軟な支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に話し合い、希望の医療機関と連携し、受診支援や情報の伝達を行なっている。かかりつけ医への希望が多く、「通院記録」をファイルし家族と共有している。		
20 (53)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	指針、同意書を作成し、入居時から話し合っており方針を説明している。医師、看護師、家族、職員で話し合っている。3年前にターミナルケアを経験している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーに関する研修を年1回行い、日常的にカンファレンスで声かけやケアの徹底に取り組んでいる。記録類はロッカーに保管、同意書も作成している。		
22 (59)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人的な外出に合わせての午前中の入浴や、起床時間により食事時間を遅らせたりと、一人ひとりのペースに沿っての支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食はホームで作り、昼、夕食は宅老所、グループホーム等一括して調理した物が配られてくる(ご飯、汁物はホーム)。介護度が高い利用者が多いので準備、片付けは職員が行っている。職員1名が検食だが、時には一緒に物を食べたり、介助しながら談笑するなど楽しんでいる様子が伺えた。		
24 (64)	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は14時～16時となっているが、午前中の中の入浴や全身清拭、シャワー浴、足浴など個別対応している。清拭の為にタオルや使い捨ての布等を、いつでも暖かいように保温して準備して、利用者の心地良さに配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居時のアセスメント、入居後に得た情報を日誌に記入して職員が共有するなどして、トランプ、文字カードゲーム、畑作り、おしゃべり、散歩などの楽しみごとや洗濯物干し、洗濯物たたみ、広告たたみ等の活躍できる場面づくりの支援をしている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ショッピング、外食、季節ごとの花見、初詣、梨、みかん狩り等や虫狩り、遠足、お宮の節分祭、校区のどんど焼き、家族との日帰り旅行など日常的に外出している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	言葉かけに対しては、適切でないと感じられる場合はリーダー等が指導するなど、拘束について理解し、拘束のないケアをしている。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠していない。リビングで職員が見守っているが、外出しそうな様子を察知すると、さりげなく一緒についていくなど、危険のないよう取り組んでいる。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やヒヤリはつとに関する報告、記録はあり、ミーティングで検討、共有しているが、マニュアルはなく、防止の方法の知識の学びは十分とは言えず、一人ひとりの事故防止のための工夫は不十分である	・マニュアルの作成 ・研修会の実施 ○
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法の受講、緊急連絡網や連携体制は整っているが、全職員の応急手当の勉強会(実技を含む)の実施はされておらず、マニュアルの整備や周知徹底は不十分である。	・マニュアルの作成 ・日常的訓練の実施 ○
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	昼夜の避難訓練を年2回実施(消防署指導と自主)している。消火器の使い方や避難経路も明確にしている。また、停電の早目の復旧に関しては、電力会社とも連携している。地元自治会の協力を得られるよう働きかけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報、通院の記録を共有して支援している。服薬は手渡し確認して、必要な情報は医師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	食前に口腔リハビリ体操を行い、食後はそれぞれに応じた口腔ケアを実施し、義歯の清掃の支援もしている。年1回の歯科検診で、要治療の人は月1回の往診や歯科衛生士のケアを随時受けている。舌下ブラシ等の指導を往診時に受ける。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量は記録しており、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。カロリーやバランスについては専門家のチェックを受けている。刻み食やおかゆ等の対応もある。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成しており、手すりの消毒(日に2回)、手洗い、うがい、ペーパータオルの使用を励行している。流行の情報は県や病院から入り、月1回のミーティングで研修を実施している。インフルエンザの予防接種は全員受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は広く静かで、壁には作品や誕生日が掲示され、季節の花も活けられている。ソファやあんま器が置かれ、それぞれにゆったりと過ごせる雰囲気もある。また、家族の為の連絡袋(アップリケ)が壁に下げられ親近感がある。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、時計、タンス、衣装ケース、ベッドなど馴染みの家具や本人の好みの花や写真が持ち込まれ、居心地良く過ごせるように本人や家族と相談しながら工夫している。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 宅老所 喜楽苑
所在地	宇部市大字西山岐波5224番地の3
電話番号	(0836)54-3445
開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (6月20日現在)

ユニットの名称	喜楽苑 グループ・ホーム 1F				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	名		男性	名	女性 7 名
	要介護 1	1 名	要介護 4	1 名	
	要介護 2	2 名	要介護 5	2 名	
	要介護 3	1 名	要支援 2		
年齢構成	平均	82.5 歳	最低	55 歳	最高 88 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員によるミーティング(月/回)で話し合いを持ち、後は、週/回カンファレンスにて討議し、自己評価する。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

- ・理念に基づき、利用者おひとり おひとりのペースに合わせ、安心できる生活造りをしている。
- ・通院介助を行ない、受診記録ノートを作成、活用し、個々の入居者の健康状態の把握と管理に努めている。
- ・年2回 訪問歯科による検診や歯科医師の指導助言のもと、口腔リハビリ体操を行なうなど口腔ケアが充実している。
- ・地域密着型サービスの特徴を活かし、馴染みながるのサービスの利用ができる。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<u>○地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	<u>○理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	<u>○運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<u>○運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	<u>○家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	地域の中でホームとしての存在を示していく
2. 地域との支えあい			
6	<u>○隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	<u>○地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	<u>○事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つような活動がないか検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 情報開示には、随時応じている。 日々の記録は、わかりやすくまとめている。		
18 (8)	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 施設内に意見箱を設置している。 又、第三者委員を明示している。		
19	〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 月/回の職員会議や、全体ミーティングの機会があり、意見や提案を聞き反映させている。		
20 (9)	〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 夜間はフロア毎に一人体制となっているが、連携も取れる体制ともなっている。日中の勤務体制も柔軟な対応が取れるよう調整している。		
21 (10)	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 部署間での異動もあるが、施設全体としての職員西己置という考えから、ダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 必要に応じて研修を受講できる体制となっている。 又、働きながら資格取得できるよう随時、外部の実習も受けられるようにしている。		
23	〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 様々な年代、性別、経験を持った職員の西己置となっている。		
24 (12)	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 グループホーム連絡会に参加し、地域の同業者との交流を図り、意見交換を行うなかでサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	〇職員へのストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 運営者は、職員との話し合いにて、実態を理解しており、働き易い職場環境となっている。		
26	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 運営者は職員ひとりひとりをよく理解に努めている。		
27	〇職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 運営者は職員の業務に対し、適切な評価をしてくれている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 本人が困っていることをしっかり受け止め、不安のないようにしている。		
29	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 家族からの相談時には、困っていること等をしっかり受け止めるようにしている。		
30	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 施設の運営上、施設内での他のサービス利用も可能であり、その人に合った支援を検討している。		
31 (13)	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 施設の運営上、在宅所のデイサービスショートステイで馴染んでいた上でグループホーム入所という流れができている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 日々の暮らしの中で喜怒哀楽を共にし、楽しく穏やかに過ごしていただいている。利用者から学ぶことも多く、利用者との支えあう関係が築かれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にお互いに情報のやり取りを行ない情報を共有することで一諸に支え合う関係を築いている。		
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時、一諸に食事をされたり、外出・外泊される方もあり、本人と家族との関係を温かく見守る		
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの人とのつながり、馴染みの場所の外出等、あまり取り組むことができていない。		
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が仲睦まじく、支え合う日々の暮らしとなっている。		
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現段階では、このような事例はないが事例があれば、関係を断ち切らないようにしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの思いを大切にするケアに取り組んでいる。		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴等を伺い、過去を大切にた支援を心掛けている。		
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとりひとりが穏やかに過ごせるようそのまま、その時の心身の状態を把握するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	計画の承認を得るため 家人の面会を待つのではなく 郵送での確認も検討する。
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		施設内 宅老所での催し時、遊びに行ったりしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		運営推進委員会を通じて意見交換を行ったり、ボランティアの方々の協力を得て、より良く暮らせるよう支援している。
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。		介護実習のための受け入れを数多く実施している。
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		訪問理容院・歯科往診などもうまく利用している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		ひとりひとりに 尊厳を持った態度での関わり 記録等の個人情報もプライバシーに配慮はる
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		本人の気持ちを引き出せるようひとりひとりの状態に合わせて、声掛けの工夫をしている。
58	〇“できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		洗濯物については、干したりたたんだりしているが利用者の“できる力”を更に引き出せるよう支援していきたい。
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		理念のうちのひとつでもあるが、日頃から職場の都合に合わせてではなく、利用者のペースに合わせてようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		自己決定できる場面は少ないが、少しでもその人らしく過ごせるようにしている。
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		準備や片付けは職員が行っている。食事は利用者と一諸に摂り、テーブル毎で話も弾み楽しいひとときとなっている。
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		お酒、たばこを嗜む方は、おられなり。飲み物については好みのものを楽しめるようにしている。
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		細やかな排泄記録を取ることで、時間を見つトイレの声掛けし、排泄の失敗をできるだけ少なくできるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	〇	スーパーでの買い物時にレジでの支払いを体験にもらう。
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	〇	通院以外にも出かける機会を設ける。本人の思いを引き出せるよう取り組む。
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	〇	家族が遠く離れた人も多くの力で力に応じて手紙のやり取りも検討する。
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	毎年夏祭りを計画し、家族への参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27) 〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び営業や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全ての職員が正しく理解しているとは思えない。	〇	勉強会の実施や研修参加の機会を持つ。
75 (28) 〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中は開放している。帰宅願望時など、利用者の行動を察知できるように見守っている。		
76 〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、夜間とも利用者の所在や様子を把握し、安全配慮している。		
77 〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤等、日常的に置いているが、危険のないよう職員が常に見守る。		
78 (29) 〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のための取り組みは、十分とは言えない。	〇	マニュアルの作成、勉強会の実施
79 (30) 〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時に備えの訓練は行っていない。	〇	訓練の実施
80 〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリはっと報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故やヒヤリはっと事例発生時には書類の作成を行っている。	〇	「ヒヤリはっと」に関する報告事例は少ない。事故防止のためのヒヤリはっと事例を更に認識する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	〇	地震、水害時のマニュアルを整備し、訓練をする。
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	〇	歯ブラシの消毒
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 玄関前は花だんの花があるが、玄関も開放にしているので、気軽に出入りできるようになっており、温かみのある雰囲気となっている。		
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 静かな場所であり、不快な音や光は感じられない。窓がらば、庭の畑が見え、四季それぞれの野菜を作っているの、季節感をしっかり感じることができる。テーブル、棚に飾っている花は皆様の愛おしみである。		
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 リビングには、食堂のスペース以外にソファも設置され、話し合いの場となっている。置のコーナーも用意され、思い思いに過ごしていただいている。		
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 居室には使い慣れた家具や小物を持ち込んでいたとき、本人にとって居心地よく過ごせる空間となっている。		
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 適宜換気に努めている。利用者の状況に応じて温度調節を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。 内部は全てバリアフリー。必要な所には手すりも設置され、安全に配慮している。		
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 トイレや各居室には、わかり易い表示をし、混乱を防いでいる。		
97	〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 建物の外周りには、ベンチが用意され、談笑の場となっている。花だんや畑もあり、花や野菜作りを楽しむことができる。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム・宅若所 喜楽苑
所在地	宇部市大字西岐波5224番地の3
電話番号	(0836) 54-3445
開設年月日	平成14年5月1日

【実施ユニットの概要】 (6月20日現在)

ユニットの名称	喜楽苑 グループホーム 2F				
ユニットの定員	9名				
ユニットの利用者数	名		男性	名	女性 9名
	要介護1	1名		要介護4	3名
	要介護2			要介護5	
	要介護3	4名		要支援2	1名
年齢構成	平均	85.2歳	最低	81歳	最高 94歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員によるミーティング(月/回)で話し合いを持ち、後は週毎のカンファレンスにて討議し
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

- ・理念に基づき、利用者おひとり おひとりのペースに合わせ、安心できる生活造りをしている。
- ・通院介助を行ない、受診記録ノートを作成活用し、個々の入居者の健康状態の把握と管理に努めている。
- ・年2回、訪問歯科による検診や歯科医師の指導助言のもと口腔リハビリ体操を行なうなど口腔ケアが充実している。
- ・地域密着型サービスの特徴を活かし馴染みながらのサービスの利用ができる。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<u>〇地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者ひとりひとりの思いを大切にした事業所独自の理念をつくっている。	
2 (2)	<u>〇理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を掲示し、共有できている。理念は介護の基本として、日々の業務に当たっている。	
3	<u>〇運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	施設入口の玄関、話所に運営理念を掲示している。	
4	<u>〇運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	運営者や管理者の指導の下、スタッフ全員が、熱意を持って日々取り組んでいる。	
5	<u>〇家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所は自治会の中にあり、地域の人々との暮らしが築かれ、家族や地域の人々にも理解してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
6	<u>〇隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	事業所は自治会の中にあり、良家に隣接している。〇2. 日常的な付き合いのできる環境にある。	
7 (3)	<u>〇地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏にはお祭り、秋には運動会に参加し、地元の人々との交流を図っている。	
8	<u>〇事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所内での支援で手一杯の状況であり、地域貢献への取り組みはできていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでい きたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○<u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 情報開示には随時応じている。日々の記録はわかりやすくまとめている。		
18 (8)	○<u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 施設内に意見箱を設置している 又第三者委員を明示している		
19	○<u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 月一回の職員会議や全体ミーティングの機会が利. 意見や提案を用. 反映させている。		
20 (9)	○<u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 夜間は7D3毎に一人体制となっているが通寝も取れる体制となっている 日中の勤務体制も柔軟な対応が取れるよう調整している		
21 (10)	○<u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 部署間での異動もあるが施設全体としての職員配置という考え方がグーシはいい。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○<u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 必要に応じて研修を受講できる体制となっている。又、働きながら資格取得できるように随時外部実習等も受けられるようにしている。		
23	○<u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 様々な年代、性別、経験を持った職員の配置となっている。		
24 (12)	○<u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 グループホーム連絡会に参加し、地域の同業者との交流を図り意見交換を行うなかで、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は実態をよく理解してくれおり、働き易い職場環境となっている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は、職員ひとりひとりをよく理解してくれている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	運営者は職員の業務に対し適切な評価をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人が困っていることをしっかり受け止め、不安のないようにしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族からの相談時には困っていること等をしっかり受け止めるようにしている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設の運営上、施設内での他のサービス利用も可能であり、その人に合った支援を検討している。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設の運営上、定老所のデイサービス・ショートステイで馴染んでいただくとでフルタイムホーム入所という流れができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々暮らしの中、喜怒哀楽を共にし、楽しく穏やかに過ごしていただいている。利用者から学ぶことも多く、利用者と職員との支えあう関係が築かれています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	〇本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	関係者と充分話し合った上で計画の作成は行っているが、本人、家族の意見はなかなか表出できていない面もある。	〇 計画の承認を得るため 本人の面会を待つのではなく、郵送での確認も検討する。
42 (17)	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6ヶ月毎又は状態の変化に応じて計画の見直しを行っている。本人や家族との十分な話し合いは難しい面もある。	
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践・結果等 個別にまとめ別かく記録を取り、情報を共有できるようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設内定老所での催し時、遊びに行った時にいる。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて意見交換を行ったり、ボランティアの方々の協力を得て、より良く暮らせるよう支援している。	
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。	介護実習のための受け入れを数多く実施している。	
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問理容院、歯科往診などをうまく利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
✓ 48 <u>〇地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて地域包括支援センターと協働し、本人がよりよく暮らせるよう支援している。		
49 (19) <u>〇かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望をいかにかかりつけ医と連携し、定期的な受診などの支援を行っている。		
✓ 50 <u>〇認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門の医師ではないが、月頃から定期的な診察を受診。状態の把握をしっかりとおり、相談にも応じてもらっている。		
51 <u>〇看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医とは別に近隣の訪問看護ステーションより定期的に訪問を受診。日常の健康管理及び指導を受けている。		
52 <u>〇早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	月頃から定期的な受診をしたりして情報交換や相談を行っている。		
✓ 53 (20) <u>〇重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針について取り決めをおり、家族への説明も行っている。		
✓ 54 <u>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向けた方針と元々、チームとしての支援に取り組んでいる。		
✓ 55 <u>〇住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	現段階では住み替えの事例はないが、事例が発生した場合は十分な情報交換ができるよう支援していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	<u>〇プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉 かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしてい ない。		
57	<u>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わか る力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得し ながら暮らせるように支援をしている。		
58	<u>〇“できる力”を大切にした家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補 充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者 の“できる力”を大切にしながら支援している。	〇	
59 (22)	<u>〇日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>〇身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支 援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努め ている。		
61 (23)	<u>〇食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや 力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている。		
62	<u>〇本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽 しめるよう支援している。		
63	<u>〇気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排 泄できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	スーパーでの買い物時にレジでの支払いを体験してもらう。
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	○	通院以外にも出かける機会と設ける。本人の思いを尊重し出すよう取り組む。
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族が遠く離れている人も多いので、言葉に代わる手紙のやり取りも検討する。
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		家族の宿泊は、1例あるが、希望があれば、適切に対応したい。今後も

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	毎年夏祭りや計画し、家族への参加を呼びかけている		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27) 〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全ての職員が正しく理解しているとは思えない。	○	勉強会の実施や研修参加の機会を持つ。
75 (28) 〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中は開放している。帰宅願望時など、利用者の行動を察知できるように見守っている。		
76 〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、夜間とも利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77 〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤等、日常的に置いているが危険のないよう職員が常に見守っている。		
78 (29) 〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のための取り組みは十分とは言えない。	○	マニュアルの作成、勉強会の実施。
79 (30) 〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時に備えこの訓練は行っていない。	○	訓練の実施
80 〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリはっと報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故やヒヤリはっと事例発生時には、書類の作成を行っている。	○	"ヒヤリはっと"に関する報告事例が少ない。事故防止のためのヒヤリはっと事例を更に認識する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<u>○災害対策</u> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	地震・水害時のマニュアルを整備し、訓練を行う。
82	<u>○リスク対応に関する家族等との話し合い</u> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<u>○体調変化の早期発見と対応</u> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<u>○服薬支援</u> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<u>○便秘の予防と対応</u> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<u>○口腔内の清潔保持</u> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	○	歯ブラシの清掃。
87 (34)	<u>○栄養摂取や水分確保の支援</u> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<u>○感染症予防</u> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<u>○食材の管理</u> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない